

Number 4-2015/16



Y's Men's World



The Official Publication of Y's Men International



Taipei Beckons



INSIDE: Messages from International Officers • Taipei Awaits IC 2016 Delegates • Two Quakes, One Response: Y's Men Lend a Helping Hand • Championing Youth Causes in YMI • A Past ISG Recalls his Predecessors • For the Record – International Conventions over the Years • Danish Y's Men's Spiritual Sojourn to Hong Kong • Environmental Concerns • YMI-YMCA Partnership Gets a Boost • Y's Action News from Far and Near • Max Ediger Column on "The Earth is the Lord's"

EDITOR

Koshy Mathew
222, 7C Main, First Block HRBR Layout
Kalyan Nagar, Bengaluru 560 043, India.
Tel: +91-9845036147
Skype: Koshy.mathew367
koshym@gmail.com

ASSISTANT EDITORS**AFRICA**

Tunji Makinde (Nigeria)
+234/8034064882 (M)
tunjimakinde@yahoo.com

ASIA

Yaz Okano (Japan)
+81/797881808 (O) +81/797844559
APYazOkano@gmail.com

CANADA & CARIBBEAN

Bill Irwin (Canada)
+1/9025693187 (H)
wci0909@hotmail.com

EUROPE

Liudmila Tyukina (Russia)
+7/9122344611 (M)
assorti44@yandex.ru

INDIA

B. Pavithran (Kerala, India)
+91/9847220054 (M)
pavithbb@yahoo.co.in

KOREA

Kim Kyun (Seoul)
+82/27352395 (O) +82/27321205
ysmenkrhq@gmail.com

LATIN AMERICA

Ricardo Andre Cardenas Zanabria (Panama)
+51/198772474 (M)
randre.cardenas@gmail.com

SOUTH PACIFIC

Bill Schmidt (Australia)
+61/344338599 (H)
schmidts@bendigodomain.com.au

USA

Fred L. Leonard (USA)
+1/5012623566 (H); +1/5012623566
fleonard@cablelynx.com

DISTRIBUTION

Babu Oommen
56, Royal Meridian Layout, Begur Road
Bangalore, 560 068, India.
+91/9901199863 (M) :: babuoomen@yahoo.com

Reprinted at

National Printing Press
Koramangala, Bengaluru 560 095, India.

ONLY FOR PRIVATE DISTRIBUTION TO MEMBERS

編集担当者より

バンガロールから再度ご挨拶申し上げます!

本号は、2015-16年度ワイズメンズワールド(YMW)紙第4号になります。第3



号までのYMW紙を楽しんで頂けたことと思います。実のところ、私も記事を書き、修正し、調査し、推敲してYMW誌を完成させることを楽しみました。

第4号は、特定の話題に焦点を当ててはいませんが、この四半期の注目すべき多くのテーマー環境、台北で開催される国際大会の準備、日本とエクアドルを四月に襲った災害などについて概観することができます。勿論、ワイズの活動に関するニュースにも通常の紙面があてられています。

会員の皆様の経験や活動に関する記事を是非お寄せ下さい。いろいろな意味で、本号への寄稿呼びかけに応じて頂いて勇気づけられました。しかし、もっと多くの記事を寄せていただいで差し支えありません。本号に関しては、寄せられた記事でかろうじて紙面を満たすことができました。

会報誌に記事を寄せることは、それほど大変なことではないのです。次号に寄稿する記事の書き方についてプロとして秘訣をお教えしましょう。新聞・雑誌業界用語に5つのWと1つのHというのがあります。What「何が」When「いつ」Where「どこで」Who「だれが」Why「なぜ」そしてHow「どのように」という質問にあなたが答えることができるなら、良い記事の輪郭は、できているのです。適切な説明文のついた数枚の高解像度写真を挿入すれば、完成間近です。詳しい説明を付け加える際には、形容詞を使い過ぎないことが肝心です。試しに記事を書いてみては、いかがですか。私が出版に耐えうる記事に推敲するお手伝いをいたしましょう。必要な場合に確認の連絡が取れるように、記事の下にあなたの詳しい連絡先を記入するのを忘れないで下さい。

もしあなたが国際大会に参加するため台北にいるのなら、あなたの印象を書き止めて、思い出深い事柄をパソコンに打ち込んで、私に送ることを忘れないで下さい。それが次号の記事として掲載されるかもしれません。

最後に新年度の舵取りを任されることになった部、区、エリアのリーダーの皆様のご努力が報われますよう祈念しております。ワイズの心を込めて

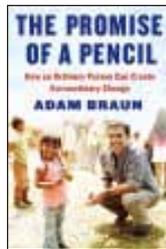
コシー・マシュー

私の本棚から

『1本の鉛筆の約束: 普通の人々がどのようにして、とてつもない変化を起こせるか』

アダム・ブラウン著

どのようにして1人の青年が25ドルを世界中の200を超える学校に変えたのか、誰で



も成功して有意義な人生を送るための指針についての心を釘付けにする物語。

アダム・ブラウンは、彼が若干16歳の時に夏の間ヘッジファンドで働き始め、成功に彩られたウォール街(世界の金融の中心地)につながるキャリアの道を邁進しました。しかし、旅行中にインドの路上で物乞いをしている幼い少年に出会いました。その少年は、世界で何が一番ほしいかとたずねられた後に、ただ「1本の鉛筆」と答えました。この小さな願い事が、ブラウンが「鉛筆の約束」を設立するために、世界で最も著名な企業の1つでの職を投げ打って、バックパックを背負い世界数十カ国への旅行に駆り立てた一連の驚くべき出来事に導いたのです。「鉛筆の約束」は、ブラウンがわずか25ドルの資金で始めた組織でしたが、これまでに世界中に200以上の学校を設立しました。

『1本の鉛筆の約束』は、ブラウンが天職を見つけるまでの人生行路を記録している書物であり、各章は、原資がわずか25ドルであっても、誰でも自分の大いなる夢を実現できる具体的な第一歩について説明しています。彼の物語は、読者を実業界の大立者、村長、世界の有名人、故郷の英雄達の裏舞台へといざなってくれます。説得力のある話と共有できる洞察力に裏打ちされたこの本は、真に迫った、心を奮い立たせる本であり、あなた自身の人生を語るに足る人生にするための術を提供してくれます。(この本の販売収益金は、全て「鉛筆の約束」の支援のために充当されます。)

(表紙の写真の説明) 台北の高層ビル群の中でも群を抜く101タワー

次号に掲載する記事・写真の提出締切日: 2016年8月31日

国際会長から

親愛なる会員の皆様へ

インドのチェンナイで2014年8月8日に開催された第71回国際大会の次期国際会長主催晩餐会を思い起こすと、「信念あるミッション」という主題を宣言し、私の夢を語る一方で、来るべき1年間のワイズ運動の舵取りの準備を進めていました。その場で私は、マザー・テレサが語った英語で6語から成る最も力強い言葉 “I believe in Love and Compassion.” 「私は、愛と慈悲を信条としています。」を繰り返しました。その言葉は、今も私の耳の中で鳴り響いています。私は、偉大な指導者マハトマ・ガンジーの説かれたアヒムサ(非暴力)を信条としています。それは、私の心を捉え、この行動理念とマザー・テレサの言葉が、国際会長を務めた2015/16年度を通じて私を導いてくれました。

我々は、間もなく8月4日～7日に第72回国際大会のために台北に集います。振り返って見ますと、私達が一丸となって6つの重点事業を推し進めることができたことを嬉しく思います。会員増強、TOF-GPFとEF基金による様々なプログラムの推進、国際赤十字社・国際赤新月社連盟との協力事業である看板プロジェクト・ロールバック・マラリアの重点化、ワイズ運動と世界中のYMCAとの相互依存・協働の再確認、ヴィジョン2022及び2022年に向けての見直し。以上をチェンナイでの就任演説の中で私の夢として述べました。

本年度を通して全てのエリアとの協働によって重要な原則である団結、潔白、美、慈愛、成熟、説明責任、創造性を堅持することができました。これらの原則は、この1年間に様々な課題に直面した全てのリーダーと会員の行動指針と

なりました。

プロジェクトの実施にあたって我々は、世界の様々な地域のワイズメンの関心事と創造性に気づきました。とりわけ、継続中の国境を越えたワイズ医師団奉仕プロジェクト、アジアエリア発案の自然災害緊急救援基金（NDERF）、クラブレベルから国際レベルに至るワイズ運動の新しい研修方法であるサーバント・リーダーシップ・プログラム、会員に対するサービス向上を目的としたチェンマイのワイズ運動衛星事務所設立などがあります。



この機会をお借りして、全ての会員、リーダー、YMCAと国連のパートナーの皆様、また全ての支援団体、全てのエリア、区、部、国際本部の事務所職員、我々が奉仕した地域社会での活動継続のためにご協力頂いた各国政府高官の皆様に心より感謝申し上げます。

皆の為に共に祈りましょう。

神様の祝福がありますように。

ワイズの心を込めて

2015/16年度国際会長 ウイッチャン・ブーンマバジョン

アジアの中心地、台北、2016年国際大会参加者を待ち受ける

古い物と新しい物、伝統的な物と超近代的な物が調和して共存している都市、台北が第72回国際大会の参加者をお待ちしております。今回の国際大会のために選ばれた相應しいテーマは、「調和して生きる」です。台北は、「アジアの中心地」として知られており、台湾の政治、経済、教育、文化の中心都市です。また、台湾は、中国語が母語として話されている社会の主要な中心都市の1つであり、国際都市と見なされています。

台湾で最初にワイズメンズクラブが誕生したのは、1955年のことでした。台湾が、正式な区として発足した後、1995年3月12日に台湾区で認証を得て最初に誕生したのが台北ア



ルファー・ワイズメンズクラブでした。台湾区は、北部、中央部、南部の3部から構成されており、現在の会員数は、およそ540名です。台湾区現理事は、Yin-Tse Lin です。台湾のワイズメンは、ワイズ運動の多くの指導者を輩出しています。その中でも良く知られているのは、元国際議員Jung-Fa



Chao, Robert Lo, Austin Lin, Jimmy Liu, David Hsiao, Oliver Wu の方々です。David HsiaoとOliver Wu 両氏は、アジアエリア会長も務められました。次期アジアエリア会長兼次期国際議員であるTung-Ming Hsiao は、現在2016年国際大会実行委員会委員長です。

台湾区が取り組んだ主要な事業には、植樹運動、高齢者に対する敬意発揚、献血運動の企画、恵まれないお年寄りを招いての春節祝賀会、子どもと若者を対象とした礼儀指導などがあります。

この囲み記事の写真は、2016年6月開催の国際大会実行委員会の模様です。

国際書記長より

情報伝達と下半期の問題点

国際本部は、主にリーダーの情報伝達上の問題と、いくつかの区の内部対立のために、2015/16年度下半期の会員数情報を収集するのに近年で最も困難な時期を迎えています。



この記事を書いている時点でも2月1日の会員数に関する最終的な情報がいくつかの区から届くのを待っています。つまり、何人の会員が今年度の国際会費を全額支払ったのかを確定できていません。

我々は、現在ポータルベースデータベースシステムの実施を目前にしていますが、このシステムを使えば、ワイズのリーダーや国際本部は、会員数の詳細に関する最も正確かつ、リアルタイムの情報を得ることができます。しかし、情報が入力されなければ、このシステムは機能しません。現時点でもいくつかの区は、国際本部に送るべき情報の更新を行っていません。

2月にインドのバンガロールで2016年年央会議が開催されました。エリア会長と次期エリア会長が多くの審議と意見交換を重ねて、ワイズ運動の新しい組織の1つとして情報伝達タスクフォース(対策班)を設立しました。この組織の目的は、いろいろな目的が他にもありますが、適切なメディアを通じて関連情報を会員に伝える調整を行ない、電子書式が使えない

い会員が適時に印刷されたコピー情報を確実に入手できるようにすることです。しかしながら、何人かのリーダーは、適時に国際本部に情報を伝えていません。彼らは区三役(理事・書記・会計)の間でさえ、きちんと情報伝達をしていないので、区や部の運営に関して十分な支援や援助を得ていません。最悪の場合には、三役が対立しているので、区のリーダー達の間でデータや情報がまったく共有されていないのです。

ワイズメンズワールド紙第2号で私は、今が自己変革の時だと述べました。その記事からの引用をお許し下さい:

今こそ、自らを改革し我々の組織の活動の現状を打破するときなのです。6年後にはワイズメンズクラブ国際協会設立100周年を迎えます。我々は、決して悲観的になる必要はありません。というのもワイズの献身的なリーダーの方々が地域社会とその住民に奉仕する為に全身全霊を傾けておられるからです。

日常生活の中で他者を思いやることも重要ですが、もしもあなたが、ワイズ運動に献身的に取り組もうと思っているのなら、できる限り迅速に情報を共有する努力をしましょう。インターネットによって、そうすることが可能になったのですから。ワイズの心を込めて

国際書記長 西村隆夫

以下のことをわきまませよう。わたしの愛する兄弟たち、よくわきまえていなさい。だれでも、聞くのに早く、話すのに遅く、また怒るのに遅いようにしなさい。(ヤコブの手紙1章19節)

アジア太平洋地域のYMCAリーダー、YMCAのミッションを再検討

香港のアジア太平洋YMCA同盟常務委員会の会合の前にして2016年3月8日に開催されたミッション再検討会議は、YMCAの指導者にとってアジア太平洋地域における今日的ミッションを再検討する旅路でした。

元アジア・キリスト者会議書記長・元韓国YMCA同盟総主事Ahn Jae Woong博士は、「全キリスト教派的、神学的反省:YMCAのミッション・職務・行動の再検討」と題する基調講演をおこないました。

講演の中でAhn博士は、現在の地球規模の社会経済学的、政治的潮流を再検討し、特に気候変動、難民問題、東アジアのバブル経済に言及しました。取り分け緊急に対処すべき主要な課題として気候変動、人口増加、貧富の差などを挙げました。

Ahn博士は、基調講演の中で全キリスト教派(世界教会)運動に焦点を当てて以下のように述べました。「『すべての人を一つにしてください。』というイエスの祈りを内包するモットーをYMCAが採用していることが、世界YMCA運動の団結・兄弟愛・全キリスト教派的理念を象徴しています。」

参加者の為にアジアの全キリスト教派運動

の詳細な分析をした最後に、平和の文化を築きあげましょうと訴えて講演を締めくくりました。博士は、アジアにおいては「多民族、多人種、多文化、多宗教、多言語の現実の中で生活し、体験する。このようなアジアという多種多様な背景を持つ大陸において我々は、神様から平和の調停者としての使命を委ねられているのです。」と訴えました。

情報源:2016年4月アジア・太平洋YMCA同盟・電子ニュース

写真の説明:講演後にウイッチャン国際会長とその他のYMI/YMCAのリーダーと共に写るAhn Jae Woong 博士(写真左から三人目)



次期国際会長から

「手を取り合えば、もっと多くのことができる」

親愛なる友人の皆様へ

私の次期国際会長としての1年の任期が終わろうとしています。振り返って見ますと、任期中に出会った素晴らしい方々とクラブに対して喜びと感謝の気持ちで一杯です。光栄なこ



とにカナダ/カリブ海エリア、ヨーロッパエリア、アメリカエリア、アジア・韓国・南太平洋エリア、インドエリアで週末に開催された次期理事研修会に出席し、多くの次期リーダーの方々とお会いすることができました。彼らは、ワイズ運動に対する情熱と、互いに学び共有する意欲と、達成可能な目標を掲げ、それを貫徹する熱意を示してくれました。私は、彼らや世界中のリーダーの方々と共に働くことを心待ちにしています。

六月が近づくとつれて、皆様の国際会長として務める1年間の目標について色々と思いを巡らせています。皆様が私に委ねて下さった責務を滞りなく果たしてゆく心積もりです。その責務の幾つかを列挙すると：

- クラブ、区、国際レベルでの顕著な奉仕活動を認知し、称える。
- 会員増強、新クラブ設立、事業献金目標額に関してエリア・リーダーと協力して適正な目標を設定し、それらを達成できるように協働する。
- ユースと若いメンバーの注意を喚起し、有意義な方法でワイズ運動に関われるように若手リーダーと協働する。
- 国際書記長が駐在するチェンマイ衛星事務所の開設に伴って、国際本部事務局員全員が対応できるように支援する。
- 問題が生じた場合、迅速かつ、より円満に対処する予防策を取れるようにリーダーと共に事前策を講じる。
- 奉仕活動、リーダーシップ、会費納入、国際プログラムへの献金、ワイズメン育成など、何をする場合でもメンバーが誠実にワイズ運動に専念できるように動機づけをする。

何にも増して私は、ワイズ運動に謙虚に、真面目に、率先して取り組むつもりです。というのも私は、国際会長であることと、その職に伴う諸々の課題に対処することの両方を享受できるからです。皆様1人1人と同じように私は、「強い義務感を持つ義務はすべての権利を伴う」を実践することを求められているからです。

私が選んだ2016-17年度の主題は、

「私たちの未来は、今日から始まる」スローガンは、「手を取り合えば、もっと多くのことができる」です。

我々の共通の目標に向かって協働することで、数例挙げるだけでも奉仕活動、会員増強、地域社会でのより広い認知に関して最大限の好ましい影響を与えることができると私は、信じています。個人としての謙虚さを失うことなく、成し遂げた素晴らしい仕事を称えなくてはなりません。以上の目標を達成するために以下のことを心に留めておきましょう：

1. 時機を得た**情報伝達**—自ら率先して積極的に情報発信し、迅速に相手に返信する。
2. 責任感のある**献身的リーダーシップ**—全ての会員は、国際リーダーであれ、プロジェクトに関わっているメンバーであれ、その間にいる関係者であれ、自分達がやると同意した事柄に関しては、初志貫徹する責任を負っている。
3. **全員が関わること**—メンだけでなく、メネット、ユースも我々の運動の奉仕と発展の最大の成果を自分の目で確かめる必要がある。
4. 他者への奉仕を**迅速に行動に移す**—待つのではなく、今日という日になされるべき仕事に精一杯従事する。
5. 与えられた職務に**責任を持つ**—ワイズのモットーを心に留め、我々にどのような手段が求められていても、常に奉仕しようと努めること。

7月1日から新年度が始まるのにあたって、ワイズメンズクラブ国際協会が、将来に向けて前向きの変化を起こすことを真に見極めることができるように、皆様お1人お1人に目の前の仕事に共に取り組んで頂きたいのです。我々の未来が今日始まることを、そして手を取り合えば、もっと多くのことができることを忘れないでほしいのです。

多くの皆様と台北でお会いできますことを心待ちにしております！

ジョアン・ウイルソン次期国際会長

私を含めて、私達の誰も偉大なことを成すことなど、とうていできません。

しかし、誰でも大きな愛があれば、小さなことはできるのです。そして手を取り合えば、何か素晴らしいことができるのです。

マザー・テレサ



災害と対応

二つの地震、一つの対応:ワイズメン援助の手を差し伸べる

4月は、どうやら非情な月のように見えます。4月14日マグニチュード6.5の地震が日本の九州の住民を襲いました。現地時間午後9:30直前に熊本県を襲った地震によって9人が死亡し、850人を超す負傷者がでました。さらに、44,000人が家を失いました。無数の小さな余震が続いて起こりましたが、多くの被災者は、最悪の事態は過ぎ去ったと信じていました。しかしながら、現地時間4月16日午前1:25に熊本県を、さらに大きなマグニチュード7.0の地震が襲いました。少なくとも41人が死亡し、2,000人を超す人が負傷しました。何十万人もの住民が飲み水も電気もない状態に置かれました。



世界中の人々がこのショッキングな出来事の詳細を知ろうとしていた時、南米エクアドルでさらに大きな地震が起こったというニュースが飛び込んできました。小さな揺れが何ヶ月も続いた後に、現地時間4月16日(土)午後7時頃にマグニチュード7.8の大地震が過疎の沿岸の町を襲いました。



70年ぶりにエクアドルを襲った最大級の地震の1つは、少なくとも350人の命を奪い、2,000人を超える人が負傷しました。近隣地域の道路は折れ曲がり、橋は崩落しました。この沿岸の観光の町では、建物の80パーセントが瓦礫の山と化しました。

日本におけるワイズメンの対応

熊本YMCAは、体育館やスポーツジムといった幾つかの一般市民を対象とした施設を運営していますが、それら建物も最も深刻な被害を受けました。地震発生時に建物内にいたワイズメン、YMCA職員、その他の人達は、避難しましたが、財産のほとんどを失ってしまいました。熊本YMCAは、それほど深刻な被害はなかったのですが、壁や電気系統の設備が被害を受けました。YMCA内での仕事に復帰するまでには、かなりの時間がかかるでしょう。

甚大な被害にも関わらず、益城町職員は、1,200人の避難民と600人の車に寝泊りしている被災者の世話にあたりました。御船町では、町役場が大きな被害を受けましたが、救助隊員が、200人の被災者の世話にあたりました。

ワイズメンとYMCA職員は、緊急の策として救援物資を提供して避難民の方々の支援を協働して行いました。熊本YMCAは、被害があったにも拘わらず、2,000人の被災者が宿泊できるように昼夜を徹して施設の整備にあたっています。

熊本YMCA副総主事でもある、宮崎隆二次期九州部部長は、被災地の救援・復興努力の陣頭指揮を執っています。益城町体育館と御船スポーツセンターを避難所にする計画が進んでいます。熊本YMCAからは、かなりの距離にある、孤立した阿蘇地域の被災者にも救援の手を差し伸べる計画が進



熊本にある多くのオフィスビルの1つの地震直後のようす

んでいます。

熊本YMCAは、ワイズメンと一般市民から義捐金を集める運動にも乗り出しました。義捐金は、YMCAの避難民支援活動の為に使われる予定です。ワイズメンズクラブは、東京からのNGO医療チームの支援を得て、地震によって身体的精神的被害を受けた人達の治療にあたることを最優先しています。熊本の多くの住民が日常の生活を取り戻すまでには、およそ5年かかるでしょう。復興には、精力的努力が必要ですが、ワイズメン関係者は、どんな苦勞もいとわない覚悟です。世界中からの支援を受け付けています。読者の皆様からのご支援も歓迎いたします。

西日本区理事 遠藤通寛



エクアドルにおけるワイズメンの対応

エクアドル政府の呼びかけに応じて、キトYMCAとキト・ワイサービスクラブのメンバーは、義捐金の募集、管理、分配の手助けをするためにマンタ(マナビ)に移動しました。一方キトでは、キト・ワイサービスクラブの他のメンバーが募金活動に必要な道具一式を準備し、別の救援活動に参加しました。

彼らの迅速な努力によって、最初の義捐金は、地震発生翌日の4月18日に届きました。

この災害の大勢の被災者は、食料、衣料、薬、水を求めて集配センターにやって来ました。彼らは、全てを失いました一家、仕事、そして家族を失った者も。最新の集計では、約700人が倒壊した瓦礫に閉じ込められましたが、113人が助け出されました。

キト・ワイサービスクラブのワイズメンとユースは、仲間達やその他の組織の支援を得て、部分的には、ワイズメンズクラブ国

次ページ(p.7下段)に続く

ユース

ワイズ・ユースの影響力拡大に努力する

2014-2016年度国際ユース代表としてワイズ運動に関わってきたことは、私にとって極めて刺激的なことです。国際ユース委員会委員長としてワイズメンズクラブ国際協会の全ての若者の声を代弁してきたことは貴重な経験でした。国際ユース代表



は、国際議会における投票権はありませんが、発言権はあります。

2年間の任期中の画期的な出来事：

●「ライフスター」プロジェクトに関してYケアー・インターナショナルと提携できたことはやりがいのある経験になりました。これは、ユースの統一国際プロジェクトでした。我々は、研修プログラムを主催し、社会情勢が不安定

な地域の失業者や困窮者が技術(洋服の仕立て、機械工、美容師など)を修得し、仕事を始めるために必要な道具や工具一式を手に入れる手助けをするための装備や器具を購入することができました。

Yケアー・インターナショナルとの提携は、素晴らしい心を揺り動かす人生プロジェクトに携わる土台を与えてくれました。

●国際ユースプロジェクトのテーマは、2年間で1万人の若者に働きかけることを最終目標とした「未来を救おう、1度に1人の若者」は、成果をあげました。世界中のワイズ・ユースが様々な発言の場を通してこれを達成しました。

●ブラジル・サンパウロで開催された国際ユース・フォーラムは、出席者にワイズメンズクラブ国際協会とブラジルのYMCAの支援を受けた地域奉仕事業の現場を訪れるだけでなく、ワイズ運動の将来構想の議論の場にも参加する機会を与えてくれました。

個人的に記憶に残る出来事：

●2015年8月に日本の京都で開催された第42回国際議会への出席。

●日本の京都で開催されたアジアエリア・ユースコンボケーションへの出席。

●広島YMCA開催の第37回国際平和セミナーと第70回広島原爆慰霊祭への出席。

●2015年5月にブラジル、サンパウロで開催された第2回国際ユース・フォーラムとラテンアメリカ・ユースコンボケーション。

定期的に異なった文化と世界の時間帯を越えて、人々と連絡を取り、国際ユース委員会の聡明なチームのメンバーと情報交換を行ない、会う機会を得たことは、多くの場面で何物にも代え難い経験となりました。

私の有意義な任期の幕引きが間近に迫っていますが、第16回国際ユースコンボケーションの開催中に台湾で多くの若者に会えることを心待ちにしています。私達は、台湾で素晴らしい経験ができることでしょう。乞うご期待。

Afolabi 'Fola' Ajomale

2014-2016年度国際ユース代表



第16回国際ユースコンボケーション
2016年8月1日～7日 台湾・台北
テーマ：奉仕の実践一率先して行動を

前ページ(p.6下段)の続き



生存者を探す救助隊員

際協会の兄弟姉妹と区のその他のクラブからの支援を得て、一致団結して救援活動を続けます。我々の次なる一歩は、被災者家族を支援し、この地震の影響から心身ともに立ち直る手助けをする為の中・長期的な活動に取り組むことです。義捐



救助作業を主導したワイズのボランティアチーム

金の寄付をご希望であれば、クラブ会長リリ・ティノコのメールアドレスlilialet@gmail.com までご連絡ください。

セザール・ヴァルヴェルデ キト・ワイサービスクラブ

公式記録用

ワイズメンズクラブ国際協会・国際大会の歴史

台北は、ワイズメンズクラブ国際協会の94年の歴史の中で、国際大会を主催するおよそ70番目の都市となります。ワイズメンズクラブ国際協会の憲法・ガイドライン1001には、「国際大会は、代表として出席する会員に対し、情報を広め、体験をわかち合い、啓発と精神的活性化を与える機会を設けるものとする。同時に国際議会に対しては、検討を行い実行に移すべき提案と推奨がなされる場でもある。」と明記されています。従って、国際大会は、同時に親睦と共通の関心事について議論を交わす場なのです。ほとんど全ての奉仕団体及びその他の組織は、年に1度、2年に1度、3年に1度といった異なる間隔で盛大にその大会を開催します。

ワイズメンズクラブ国際協会の国際大会は、外因的な幾つかの理由で開催されなかった3年間を除き、設立された1922年から1976年までの長きに渡って年に1度開催されていました。第72回台湾国際大会出席の為に台湾に集う準備をするに当たって、国際大会の歴史を速足で振り返って見るのが相応しいと思われます。

第1回大会は、1922年11月にアメリカ合衆国アトランティックシティで開催されました。もともと年1回の行事として発案されましたが、2つの国際大会の間隔は1976年の国際議会決定により2年となりました。もともとなことですが、ワイズの創世記には、国際大会の全てが北米大陸のアメリカ合衆国かカナダで開催されました。これまで49回の国際大会が、アメリカ合衆国かカナダによって主催されました。両国では、ポール・ウイリアム・アレキサンダーがワイズメンズクラブを創設して以来、会員数は急速に増加しました。両国以外で西半球で国際大会を主催したのは、メキシコ（1950）とジャマイカ（1973）の2ヶ国でした。

YMCA創立100周年を祝った年である1955年のパリ国際大会が西半球以外で開催された最初の国際大会でした。デンマーク区が、1975年にコペンハーゲンで初めて国際大会を主催しました。それが、西半球以外の地域でワイズ運動の発展パターンが大きく変化した転機となりました。日本は、1975年に国際大会を主催したアジアで最初の国となりました。

偶数年に国際大会を開催するという決定がなされた後の最初の国際大会は、1978年にオーストラリアのメルボルンで開催されました。それ以降、ほとんど全ての国際大会は、アジア（韓国、ソウル1982・日本、京都1988・シンガポール1994・香港2000・インド、コーチン2004・韓国、釜山2006・日本、横浜2010・インド、チェンナイ2012）もしくは、ヨーロッパ（スウェーデン、ストックホルム1980・デンマーク、オーフース1986・ノルウェー、オスロ1992・フィンランド、ヘルシンキ1998・デンマーク、ヘアニング2008・ノルウェー、スタバングル2012）でした。オーストラリアは、2002年にシドニーで再度開催。アメリカ合衆国は、1990年にミネアポリスで、カナダは、1996年にニューブランズウィック州フレデリクトンで開催しました。

国際大会が中止になったのは3度だけです。最初は、アメリカ合衆国に端を発した世界大恐慌の影響で1933年に、1943年と1945年には、第二次世界大戦が理由で中止となりました。2016年国際大会は、近年、台湾でワイズ運動が勢いを増していることから、台湾のワイズ運動にとって画期的な行事と言えるでしょう。

コシー・マシューによる調査と記事

2000年代になって開催された国際大会



2000年8月3日-6日
香港国際コンベンションセンター
中国特別行政区香港



2002年8月1日-4日
ダーリング・ハーバー
オーストラリア、シドニー



2004年8月12日-15日
ガルファー・コンベンションセンター
インド、コーチン



2006年8月3日-6日
ホテルロッテ & BEXCO
韓国、釜山



2008年7月31日-8月3日
ヘアニング・コンgresセンター
デンマーク、ヘアニング



2010年8月5日-8日
パシフィコ横浜コンベンションセンター
日本、横浜



2012年8月2日-5日
スタバングル・フォーラム
ノルウェー、スタバングル



2014年8月7日-10日
チェンナイ・トレードセンター
インド、チェンナイ

歴史の1コマ

歴代国際書記長の回顧録

イングヴァー・ワリン*

個人的には、ヘンリー D. グリムズと彼以前の国際書記長にお会いしたことはありませんが、1972年に出版されたワイズ運動史には多少の参考になる情報が載っています。

ジェリー・ヘイルは、1970年に私が、副国際書記長として雇用された時の国際書記長でした。彼は、1962年にヘンリー・グリムズが亡くなった後に、その職を引き継ぎました。事務所は、アメリカ合衆国イリノイ州ダウナーズ・グローブに移されました。国際本部の建物建設のために12万5千米ドルを目標に募金運動が始まりました。最終的に土地をイリノイ州オークブルックに購入し、1968年には、建物が完成して開所式が行なわれました。ジェリーは、国際書記長としての通常業務の範囲をはるかに越えて、募金活動と建物の完成に関わる仕事の監督をしました。

1972年にワイズメンズクラブ国際協会がスイスのジュネーブに国際本部を移転する決定を行なった際、彼は、退職を間近に控えアメリカに家族全員を残して、ジュネーブに転動したくないと表明しました。ジェリーは、イングヴァーが国際書記長の職に就き、彼自身は、留まってアメリカ・エリアの書記長を務めると提案しました。

彼は、1974年2月に開催された執行役員会（新国際憲法発効前の最後の委員会）の場で以下の詩を引用して閉会の辞を終えました。

それは、航海の始まりである—嵐の始まりではない
それは、あなたを目的地に導いてくれる
あなたは、己の運命の支配者であり
あなたは、己の魂の船長である

ノルウェー出身のビヨルン・ペダーソンは、「私の後任であり前任者」でもありました。彼は、1979年1月1日から私の職を引き継ぎ、1984年5月1日からは、私が彼の職を引き継ぎました。私の退職後、2001年1月1日にウルグアイ出身のローランド・ダルマスが国際書記長に就任しました。妻のクリスチアニ

と私は、ローランドと彼の妻であるグロリアとともに親しい関係にありました。お二人は、私の娘であるアンと彼女の家族が住んでいたアパートの賃貸契約を引き続き結びました。彼らの二人の息子さんは、現在もジュネーブ（近郊）に住んでいるので、毎年夏には、特に孫息子さんに会うために里帰りします。毎年夏には、我々は南フランスで過ごしていたので、ローランドご夫妻は私達のアパートに滞在しました。

1925年から1962年の間、ワイズメンズクラブ国際協会の本部は、マサチューセッツのヘンリー・グリムズの自宅地下室に置かれていました。当初、彼は我々の組織のボランティア書記兼会計として働いていましたが、後に最初の常勤職員となりました。彼の死後、ワイズメンズクラブ国際協会は、イリノイ州にあるジョージ・ウィリアムズ大学近くのダウナーズ・グローブの賃貸施設に本部を移転しました。恒久的な本部建物の必要性がワイズ指導部によって確認され、その建設資金集めの募金運動が開始されて、最終的にイリノイ州オークブルックに施設が完成しました。我々の組織が国際的運動に発展したのに伴って、指導部も会員もスイス・ジュネーブにあるジョンR. モット・ビルに本部を移転する決定をしました。そのビルは、すでに世界YMCA同盟の本部としての機能を果たしていました。国際本部は、現在もスイス、ジュネーブのYMCA施設内にあります。

情報源：YMIウェブサイト（資料庫）

就任当初の数年間ローランド国際書記長は、ワイズ運動を展開しているいくつかの地域から絶え間ない非難を受けて困難な時期を過ごしました。私は、できる限り彼を擁護しましたが、一部のリーダーをおおいに当惑させました。ワイズ運動は、危機的な状況に直面していたのですが、ベンソン・ワブレ元国際会長の「政治的手腕」のお陰で、ワイズ運動は、再び1つにまとまりました。

2010年9月1日、「にし」のニックネーム知られる西村隆夫ワイズがローランドの後を引き継ぎました。私と彼との仕事上の関係は、極めて良好で、彼は諸々の問題に関する歴史的背景情報を得るために時々「私の知恵を拝借します」。

*イングヴァー・ワリンは、彼の秀でた長い職歴の間に国際書記長を二度務めました。この記事は、元国際会長ニュースレター（2016年3月）に掲載された内容を再掲載したものです。

ワイズメンズクラブ国際協会元国際書記長

| 名前 (国籍) | 任地 | 任期 |
|-----------------------|------------------|-----------------------|
| アールF.クーン (アメリカ) | オハイオ州、コロンバス | 1922.11.17-1923.10.16 |
| I.ウイリソン・ヘイリー (アメリカ) | マサチューセッツ州、ウェイヴァー | 1923.10.16-1925.10.17 |
| ヘンリー D. グリムズ (アメリカ) | マサチューセッツ州、ローレンス | 1925.10.17-1962.12.27 |
| ジェラルド L. ヘイル (アメリカ) | イリノイ州、オークブルック | 1963. 9.15-1973.8.31 |
| 副:ブルース・キメル (アメリカ) | イリノイ州、オークブルック | 1969. 4.1-1971.4.1 |
| 副:イングヴァー・ワリン (スウェーデン) | スイス、ジュネーブ | 1970.1.1-1973.8.31 |
| イングヴァー・ワリン (スウェーデン) | スイス、ジュネーブ | 1973.9.1-1979.1.2 |
| ビヨルン・ペダーソン (ノルウェー) | スイス、ジュネーブ | 1979.1.3-1984.3.31 |
| イングヴァー・ワリン (スウェーデン) | スイス、ジュネーブ | 1984.4.1-2000.12.31 |
| ローランド・ダルマス (ウルグアイ) | スイス、ジュネーブ | 2001.1.1-2010.8.31 |

注:日本出身の西村隆夫ワイズは、2010年9月1日に国際書記長を引き継ぎ、ジュネーブに駐在しています。情報源:YMI ウェブサイト

リーダーの第1の責任は、
現実を正しく認識することである。
最後の責任は、
有難うと言うことである。
その間は、リーダーは
人に仕える存在である。

—マックス・デブリー

異文化体験

デンマークのワイズメンの霊的な学びの滞在

デンマーク区RandersDjursland部の12人のワイズメンが、彼らのクラブの会員であり、タオ・フォン・シャン・クリスチャンセンターのシニアボランティアとして働いている、アン・ソフィーとレイフ・ホルムの二人を訪れるために香港への霊的な学びの旅に出発しました。

タオ・フォン・シャン・クリスチャンセンターは、ノルウェーの組織であるアレオパゴスによって運営されています。センターは、ノルウェーの宣教師Karl Ludvig Reichelt (1877-1952)により1930年に創設されました。彼は、1904年に中国湖南省に派遣されました。そこで彼は、仏教徒の間に福音を広めるための思案を巡らしました。1930年に当時の中国における政情不安に伴って、活動の場を香港の沙田に移しました。センターの建物は、デンマーク人建築家ヨハンネス・ブリップ・モラーによって設計されました。1952年3月13日にReichelt が亡くなるとタオ・フォン・シャン墓地に埋葬されました。

タオ・フォン・シャンは、中国語です。「タオ」は「神」を、「フォン」は「呼吸」を、「シャン」は「山」を意味します。全体の文字通りの意味は、『神が呼吸する山』です。センターの主たる目的は、『周囲の状況との調和を重視しながらキリスト教的宗教心、芸術、祈祷を養い育て、宗派を超えた文化的交流と対話を奨励することです。』

霊的人格形成と指導を行なう正規の1年間資格免許状コースとは別に、センターは、多くのセミナーを実施しています。また、バックパッカーやセミナー参加者のためのホステルも完備しています。

12名のワイズメンは、中国南部のこの大都市で忘れがたい経験をしました。タオ・フォン・シャン・クリスチャンセンターを基点として、中国本土を2日間訪問し、いくつかの教会を訪

れ、神学セミナーに出席し、何人かの受講生と言葉を交わし、その後に夕方のパール川クルージングで1日を締めくくりました。



左から右に：イブ・モラー・イエンセン、カレン・トヴェデガルド、ニンナ・イエンセン、アニー・ニールセン、フレミング・ニールセン、エリン・ヴィベ、マルギット・ハンセン、ピーター・ヴィベ、カールJ・クリスチャンセン、カールE. ビスコフ、エバ・マリー・オマルク、ウッフェ・ハンセン

香港でワイズメンの一行は、ワンチャイのセントラルプラザ75階にあるスカイシティー教会の早朝礼拝に出席しました。また、バゴダ（仏寺塔）を訪れ、瞑想散策に出かける前に瞑想集会に参加しました。二人の尼僧のガイドに導かれて一行は以下の美しい瞑想の歌を学びました。

息を吸って、息を吐いて
私は、花のごとく咲き
私は、露のごとく新鮮で
私は、山のごとく堅牢で
私は、大地のごとく揺るがない
私は、自由だ

ワイズメンを訪問する

我々の滞在の目的の1つとして香港のチム・シャ・ツイ・ワイズメンズクラブを訪問しました。ジョレンス・ツァング部長が歓迎会を開催して、香港におけるワイズ運動の概要を我々に説明してくれました。Kronjyllands-Randers ワイズメンズクラブとチム・シャ・ツイ・ワイズメンズクラブを代表してイブ・モラー・イエンセンとジョレンス・ツァングがクラブバナーの交換をおこないました。

二つの文化の相違や諸々の話題について活発な意見交換が行なわれました。地理的に遠く離れた区に属しているにもかかわらず、募金活動やクラブ例会の持ち方に関しては、それほど違わないことが意見交換で分かりました。

イブ・モラー・イエンセン

デンマーク区Randers-Djursland部次期部長



バナー交換—イブ・モラー・イエンセンとジョレンス・ツァング

環境問題

より良い環境のためのコンポスト容器—最新情報

スリランカのモラトゥアYMCAは、ワイズメンズクラブ国際協会のグリーンチームの財政援助を得て、環境改善プロジェクトを実施しています。

現プログラムの元では、地元地域社会の住民は、有機ゴミの堆肥化を含めて固形ゴミの扱い方と処理方法について教育を受けています。YMCAは、モラトゥア市議会と密接に協力して、環境全体に悪影響を与えないように非分解性ゴミを定期的に回収しています。

このプロジェクトによって、90のコンポスト容器を受け取った450人に直接的恩恵を与えるだけでなく、近隣地域全体が恩恵を被ることになる環境全体の改善が見込まれます。

地域社会の住民は、有機ゴミと非分解性ゴミの分別とコンポスト容器の正しい使用法に加えて、自家菜園の方法について教育を受けました。

その恩恵を受ける世帯は、小グループに分かれて、訓練を受けた地元ボランティアのコーディネーターが、コンポスト容器の使用と維持方法について彼らの手助けをします。YMCAの職員とボランティアの人達は、定期的に視察を行います。

さらに、このプロジェクトの元で、地域社会内の環境意識を

高めるために固形ゴミの管理と堆肥の作り方について小学生が教育を受けています。

モラトゥアYMCAの特別委員会が、このプログラムのモニタリングを行なっています。



コンポスト容器と一緒に写る地域とYのボランティア

このプログラムは、ワイズメンズクラブ国際協会の「二酸化炭素相殺」交付金から資金を得ています。交付金の申し込みに関する詳細は、ホームページwww.ysmen.orgの‘environment’の項目を参照するか、EメールでColinLambie@ysmen.org.auまでお問い合わせ下さい。

コリン・ランビエ

フランシスコ法王 気候変動について語る

2015年6月18日フランシスコ法王は、ご自身が発送された回勅「ラウダ・シ（賞賛された存在）」の中で「環境に関する考えの転換」を呼びかけられました。192ページから成る回勅は、人間が引き起こした気候変動と戦う為に科学と宗教の新たな協調を訴えています。その立場は、直ちに懐疑主義者達と対立することになりました。法王は、懐疑主義者達が気候変動の人為的な理由を「否定している」ことをたしなめておられます。



この回勅発送1周年を記念して、その内容を振り返るために幾つかの重要事項を「抽出」して再度要約して見ましょう。

気候変動は、現実であり、しかも悪化している。フランシスコ法王は、歯に衣着せず次のように語っておられます。「気候変動は、環境、社会、経済、政治、物流に深刻な影響を与える地球規模の問題です。それは、今という時代に人類が直面している主要な課題の1つです。もしも現在の傾向が続けば、21世紀は、途方もない気候変動を目の当たりにすることになるでしょう。未曾有の生態系の破壊が起こり、全人類に深刻な影響を及ぼすでしょう。」この発言によってフランシスコ法王は、世界中の気候変動を否定する人達と真っ向から対立することになりました。

人類が、気候変動の主因である。多くの人達が気候変動は、現実であると認めている一方で、一部の人達は、それは人為的現象ではないと信じています。科学は、その考えが誤っていることを示唆しており、化学の専門家でもあるフランシスコ法王は、人類は、間違いなく地球に影響を与えていると述べておられます。「我々は、自らを地球の統治者か支配者のように見なすようになり、意のままに地球を略奪する資格があると考えているのです。」

フランシスコ法王は、富める国々の貪欲をとがめて次のように述べられておられます。「幾つかの豊かな国々の膨大な消費に起因する温暖化は、世界の最も貧しい国々、特にアフリカに影響を与えています。それらの国々では、気温の上昇が、旱魃と相まって農業が壊滅的な被害を受けました。」

「自然を、単に利潤や利益の源として捉えるなら、それによって社会は深刻な影響を被ることになります。」

気候変動は、とりわけ貧しい人々に影響を与えている。フランシスコ法王は、気候変動は、「おそらく今後数十年の間に発展途上国に最も深刻な影響を及ぼすでしょう。貧しい人々の多くは、温暖化に関連した現象によって特に影響を受けている地域に住んでいます。そして彼らの生活の手段は、自然の恵みの蓄えや農業、漁業、林業などの生態系に関わる労役に大きく依存しているのです。」

我々は、状況を改善することができるし、改善しなければならない。

気候変動について研究した人達の中には、気候変動現象は限度を越えており、不可逆な過程であると信じています。しかし、フランシスコ法王は、我々は、希望を失うべきではないと言っておられます。「人類は、最悪の状態を引き起こす能力を有している一方で、自らの欠点を克服し、もう一度良いことを選択し、新たな道を歩み始める能力も有している。」希望は、あるのだと断言しておられます。

個人は、手助けはできるが、政治家が先導しなければならない。

フランシスコ法王は、気候変動を良い方向に転換させるために個人の責任は、重大であるが、変化を持続させる為には、政治的、構造的変革が必要であると主張しておられます。「後世の人達、いま成長している子ども達に我々は、どのような世界を残したいのか?」と書いておられます。「それぞれの地域社会が生きる為に必要なものは、どんな物であれ地球の自然の恵みから得ることができますが、地球を守り、来るべき世代の人達に地球の豊かな恵みを確保する責任があるのです。」と付け加えておられます。

世界の各地から

YMCAとワイズメンの協働関係強化される

2016年3月8日～11日、香港でのアジア太平洋YMCA同盟年次常務委員会開催中に、ワイズメンズクラブ国際協会のアジア太平洋地域の4エリア(アジア、インド、韓国、南太平洋)の会長が、同盟リーダーとの合同会議を開催したことによって、YMCAとワイズメンズクラブ国際協会との歴史的な協働関係が強化されました。

合同会議では、アジア太平洋地域の様々なレベルでワイズメンとYMCAの協働関係、特にユース・エンパワメント(若者の権限付与)強化の方策が議論されました。

常務委員会は、また世界YMCA同盟の運動やプログラムと多くの共通点と重複があることに気づきました。従って、世界YMCA同盟との強化された協調・共同関

係は、今後4年間は、継続することになるでしょう。

情報源: APAY 常務委員会2016年3月の声明書

2016年香港でのアジア太平洋YMCA同盟とYMIとの合同会議公式グループ写真



オーストラリアでのキャンプ

ジェニファー・ジョーンズ、南太平洋エリア会長

オーストラリア南部(みなみぶ)は、オーストラリア区を構成する三つの部の1つであり、大部分のクラブは、ヴィクトリア(オーストラリア南東部の州)に位置しています。しかし、セントラル・コーストクラブは、大多数のクラブからは、900キロも離れています。同クラブは、美しい灌漑農地と運河が曲流する中央部に位置するヴィクトリア州北部の小さな町ヌマーカで5月下旬に部主催のキャンプを実施しました。

42名の出席者の為にゴルフ、芝ボーリング、ワイン醸造所、地元でのウインドーショッピングなど様々なプログラムが提供されました。河の遊覧はグループのメンバーに人気で、およそ30分かけて北上し、マリー川沿いにあるレッド・ガム(ユーカリ属の木)が繁茂するバーマ・フォーレストまでの船旅を楽しみました。スポーツプログラムに関しては、熾烈な戦いが繰り広げられた結果、ニック・ファレル、リン・ウイルソン、テッド・ブロウがゴルフで優勝し、イアン・ベネッ

ツ、ジョン・ギフォード、ジェニファー・ジョーンズが芝ボーリングで優勝しました。

日曜の朝、デール・フォザリング元国際会長がグループの為にワイズ国際憲法の幾つかの重要な要素に焦点を置きながら早朝礼拝を進行しました。彼は、我々全員に目標を達成するー永続する成果を上げる! という能力が備わっていることを認識しているので「全人類の為のよりよき世界を築く」為に引き続き尽力するよう奨励しました。

部会の中で各クラブは、報告の重要事項について説明を行いました。最も若いクラブであるベンディゴ・サウスクラブは、今年設立10周年を祝います。殆どの会員は、高齢の退職者ですが、引き続き新入会員を獲得しようと努力しています。イーグル・ホーククラブは、部最優秀クラブ賞を受賞しました。会員達は、誇らしげにトロフィーを持って記念写真に写りました。LTODエリア事業主任ウェイン・キャメロンが、新しい区のウェブサイトとその活用状況について報告をおこないました。クリスティーン・ヴァン・ダー・ジー理事、ラッセル・ジョーンズ次期エリア会長、ジェニファー・ジョーンズエリア会長が、アジアエリアとの合併、新しいエリア憲法・ガイドライン、来たるべき区大会、晩餐会、クラブの維持、年次会議、アジア・太平洋YMCA同盟会議について報告を行いました。

午前中のプログラムを終え、会員達が家路に着く前に、楽しいバーベキュー昼食会が催されました。その他の会員は、1日か2日滞在を伸ばして、ブローケン・クリーク川の土手で仲間や留鳥達とくつろぎの時を過ごしました。会員が集う格好の場所であるので、部会を企画したクラブは、次年度も同じ開催地を予約しました。



部最優秀クラブのトロフィーを持って写真に写るイーグル・ホーク・ワイズクラブ会員

世界の各地から 大義のために走る

「私の中の優勝者」ランは、カルナタカ（インド南西部の州）のHIV/AIDSに感染している子ども達、特にバンガロールにある居住式医療施設スネハ・ケア・ホームに収容されている子ども達を対象とした募金活動です。この行事のもう一つの目的は、社会全体にそのような子ども達の将来について考えてもらうことです。

このランは、4年前に始まりましたが、走る情熱と社会的な大義に関する責任感によって大衆を巻き込んだ行事に成長しました。これまでと同様に11月に開催された2015年のランは、バロンズワイズメンズクラブ、



走る前に準備運動をする参加者



ニューシティーワイズメンズクラブ、カメララムワイズメンズクラブが主導し、バンガロール第II部が支援しました。

それは、HIV/

AIDSに感染している子ども達の士気を高め、高揚させる朝でした。このランには、老若男女、親も子もこの行事を思いで深いものにする為に参加しました。それは、走りあり、楽しみあり、生演奏あり、ズンバダグンスありの、朝もやの中で実施された素晴らしい行事で、スネハ・ケア・ホームのHIV/AIDSに感染している子ども達を支援するという崇高な大義のために1,000人近い参加者が協力しました。

ヴァイマル・ジャヤン
バンガロール・ニューシティー・ワイズメンズクラブ

「ジェンブルグ」店の35周年記念とさらなる飛躍

「再生利用」または「中古品の」を意味する「ジェンブルグ」の理念は、ヨーロッパ、特に北欧諸国では、ずっと以前から知られていました。

1981年9月以来、ブラッドストラップ・ワイズメンズクラブは、デンマーク中央部に位置する町ブラッドストラップの目抜き通りで中古品店を運営しています。これまでに多くの古着、古本、その他の物品を販売してきました。その売り上げは、クラブのCS事業資金を生み出してきました。社会的弱者の支援を行っている組織であるキルケネス・コルシャールに15万ユーロ以上を寄付しました。またブラッドストラップの町と世界中の教会関係者の子どもや若者の為の事業を支援しました。

クラブは、最近になってより多くの中古品を収容するスペー



着想通りに良く売れるーデンマーク、ビルズピアウの
トレホエ・ワイズメンズクラブが運営するジェンブルグ店

スを確保するために店の改装を行ないました。店名も「ブラッドストラップ・ジェンブルグ」と成ります。収容スペースは、以前と比べて2倍以上となり、中古家具も置いて販売できるようになりました。過去数年に渡ってこの店は、年間およそ14,000ユーロの利益を生み出しました。販売する中古品を選択する責任者のヘニング・ジェンセン議長は、スペースが広がり、品物が増えることで収益が上がることを期待しています。ブラッドストラップ・ジェンブルグ店は、年中無休でクラブの会員を含めて、およそ40名のボランティアで運営されることとなります。

新しい店の内装工事は、本当に大変な仕事でしたが、ボランティアの人達が携わってくれました。作業は、順調に進み、クラブ会員の間で共同体意識を生み出しました。彼らは、2月の開店に向けて1月いっぱい忙しく働きました。

エヴァン・ヨハンセン



ブラッドストラップ・ジェンブルグ店の改装をするボランティア

世界の各地から

デンマークのメネット、活動を振り返り、行動計画を練るために集う

スツ・ワイズメネットクラブが、ホストクラブとなって、ヨーロッパエリア・デンマーク区のおよそ70名のメネットが、2016年5月28日にメネット区大会を開催しました。デンマークは、8つの活発なメネットクラブから構成されており、合計でおよそ200名の会員がいます。

ヨーロッパの他の地域には、メネットクラブがないので、メネット区があるのは、デンマークだけです。世界中には、8千〜1万人のメネットがいると推定されています。デンマークに加えて、アメリカ、カナダ、オーストラリア、インド、韓国にメネットクラブがあります。デンマークで1番歴史のあるワイズメネットクラブは、1955年にチャーターされたオルボアフ・ワイズメネットクラブで、最長老の会員はおよそ90歳で、現在も健在です。

ガーダ・ブラッド部長は、彼女の報告書の中でデンマーク区の全てのメネットクラブの活動の充実振りに、喜びを表明しています。メネット達は、デンマーク以外の様々なプロジェクトを支援しており、10万5千クローネの募金を集めました。主たるプロジェクトとして「シリアとイラク北部の女性と子ども達の支援」と「インド農村部の未亡人と貧しい女性」支援プロジェクトがあります。また、地元の8クラブが支援目的で使うことのできる37万5千クローネの基金があります。次年度のデンマーク部のプロ

ジェクトとしてYWCAの社会事業、特に人身売買された女性の支援を選びました。

YWCAの社会事業が、ビルイッテ・イエルト・グラケジャール



メネット区大会の会合

の「希望あるところに、命がある」という主題に関する次の話し合いのテーマでした。彼女は、デンマークのYWCAの社会事業の議長を15年間務めていました。YWCAは、特に悩みを持つ女性の為の保護施設（避難所）を運営しています。この話し合いは、全ての出席者の良識を問う、切実かつ今日的な問題に関する議論の場となりました。

メネット区大会は、ビルイッテ・イエルト・グラケジャールを牧師役としてギェレルブ教会での礼拝で幕を閉じました。最終日の締めくくりには、晩餐会が催され、数人のワイズメンがウエイターの役割を果たしてくれました。

K.E. ハンセン提供の原稿と写真

学校間交流子ども祭

2015年11月、4日間に渡ってインド・中西区・第4部と協力して、コスモポリタン・ワイズメンズクラブは、学校間交流子ども祭を開催しました。イメージ構築プロジェクトは、その地域の300の異なる学校から5千人以上の生徒を集め、コスモポリタン市の各会場で25種目の競技が行なわれました。

競技は、暗誦、一般常識、物語作成、書写、随筆作成、記



小学生の色塗り競技

憶、つづり字、愛国の歌（団体）、演説、ニュース読み上げ、軽音楽、色塗り、物語朗読など様々な行事の中で競い合いました。これらの行事は、小学校低学年から小学校高学年さらに中高生の才能を引き出す為に企画され、コスモポリタン市の異なる会場で現地の言葉（マラヤラム）と英語で実施されました。

毎年11月14日には、インドの初代首相パンディット・ジャワールハルラー・ネールの誕生日を記念して全国で子どもの日が祝われます。この日は、市内の小学校付属幼稚園に在籍する子ども達の為に捧げられています。

最終日の競技は、町役場とその建物内で実施され、赤ちゃんニコリ競技、アクション・ソング競技などに1歳から12歳のおよそ1,000人の子ども達が参加しました。

11月15日に、盛大な賞品授与式でこのお祭りは幕を閉じましたが、何千人もの親や観客の中には、ワイズ運動の1コマを心に刻んで帰る人や、自分達の子どもへのご褒美としてこの思い出を持ち帰る人もいました。

パヴィスラン B.
インドエリア編集補佐



MANTRA FOR THE SOUL

マックス・エディガー

Max Ediger*

魂の真言

地は、主のもの

「私達は、時には自分の家を建てる木材や薪を得るために、森の木を伐採する必要があります。しかしその木を切る前に私達は、木に話しかけます。私達は、その木になぜ木が必要であるのかを告げ、我々が生き続ける為に材木を提供してくれることに対して、木に感謝します。次にその木と周りの自然全てに許しを請います。なぜなら我々の責任は、森を搾取することではなく、森を守り、世話をすることだからです。全ての生命は貴重であり、木に命が宿っているだけでなく、その木のお陰で多くの動物や昆虫がいることを知っているからです。神が責任を持つべき対象として我々に授けたこの環境に深い敬意を持っているからです。」

当地、カンボジアで最近開催された「我々の信仰心は、地球の声に耳を傾ける」というテーマで開催された会議で、上述した先住民女性の言葉を共有しました。カトリック教徒、プロテスタント教徒、仏教徒、イスラム教徒、先住民の人達は、信仰心を持つ者として一握の人達の経済的利益の為に、森林を破壊することについて何を行い、何を語るかについて考察する為に二日間の会議に集いました。

最も熱のこもった意見は、先住民の参加者によって表明されました。彼らの意見は、アジアのその他の先住民の人達の意見と同じものでした。昨年「平和の学校」で北アメリカ(彼らはタートル・アイランド「亀島」と呼んでいる)の先住民の二人の女性が、「母なる大地をゆっくりと歩み、父なる大空を汚さない」ための先住民の伝統について話している際に同じような心情を吐露してくれました。

会議に参加した仏教僧の方々が「開発業者」たちがゴルフ場やバナナ農園を作る目的で木々を伐採するのを防ぐ為に、彼らが時々どのようにして木を僧侶に任命するのかについて語ってくれました。

あるイスラム教徒の参加者は、コーランの教えを引用して、環境は全て聖なるものであって、尊厳を持って取り扱われなくてはならないと語りました。彼は、「木を植えることは、慈善行為であり、アッラーによって全ての人と動物が木に実る果実を自由に食べることを許されたのである、なぜなら、それは全世界に与えられた天の恵みだからです。」と述べました。

あるカトリック修道女の方は、天地創造の物語について語りました。神は、創造主であり、宇宙全体の所有者であるので、この宇宙を汚染することなく、守ることが我々の責任なのです。彼らの意見に耳を傾けていると、旧約聖書・詩篇第24章1節の言葉「地とそこに満ちるもの/世界とそこに住むものは、主のもの」が私の頭の中を繰り返し巡っていました。これはとても美しい詩の1節で、幼い頃教会の日曜学校で学んだことを覚えています。しかし、この短い会議に参加するまで、その意味に

ついて本当に深く考えることはありませんでした。

どうやら我々は、とても所有欲の強い人間になったようです。「この土地は、私のものだ。」「これらの木々は、私のものだ。」「これらの天然資源は、私のものだ。」従って、私達には、「自分達の土地」にある物は何でも伐採し、切り刻み、穴を掘り、爆破し、粉碎し、売り払う権利があると感じているのです。しかし、詩篇第24章1節は、そのような考え方をする私達に疑問を投げかけるでしょう。これら全てのものは、実は主のものであり、我々の経済的利益の為に地球を搾取する権利などないのです。木々は、我々の家を建てるのに必要であるだけでなく、鳥や昆虫や様々な動物にとっても必要なのです。それら全ては、神が創造された物であって、我々には、それらを優しく思いやる責任があるのです。

先住民の人達の声は、我々は神の創造物の所有者ではなく、その保護者であるという考え方を鋭く反映しています。彼らが木を切り倒す前に木に話しかける時、彼らは、木に話しかけているのではなく、創造主である神に話しかけているのです。我々が必要とする全ての物を与えてくださった創造主に感謝するだけでなく、神から与えられた自然の恵みに対して不敬を働いた時に許しを請うているのです。我々は、先住民の人達の声から学ばなくてはなりません。彼らは、「地は、主のもの」であることをどうすれば認識できるのかを我々に教えることができるし、教えなければなりません。

*マックス・エディガーは、カンボジアで生まれた平和の学校の運営責任者です。

www.mennolink.org/peace 合衆国メノナイト教会平和・正義支援ネットワーク・ネット出版・ピース・サイエンスの許可を得て転載



世界環境デー 6月5日

世界環境デーの今日、私は

世界中の人達と政府に強く訴えます

無関心を克服し、貪欲と戦い

我々の自然の遺産を守る為に行動することを

今と将来の世代の為に

国連事務総長、パン・ギムン

2016年環境デーのメッセージ



ワイズメンズクラブ国際協会は男女から構成されている活発な団体で地域社会に奉仕しています
しかも私達は、そうすることを心から楽しんでいるのです!

奉仕団体である我々ワイズメンズクラブは、あなたとあなたの家族1人1人に友愛という喜びと、共通の価値観と理想に加えて、あなたが住んでいる地域社会をより良い生活の場にするという満足感を提供できるとお約束します。

あなたのエリアにあるワイズメンズクラブは、世界の全ての大陸にある70以上の国と地域の地域共同体をより良い場所にする為にYMCAと協働して取り組んでいる世界的な組織の1であり、国際的な触れ合いとプロジェクトを実践する機会を提供しています。

我々の組織は、多種多様な資質を持った会員によって支えられており、その1人1人が全世界のために貢献しています。

今こそ、あなたが参加して成長する好機なのです
個人レベルで

- ・あなたの社会的スキル、組織的スキル、コミュニケーションスキルをさらに向上させる。
- ・所属するクラブのプロジェクトや活動にあなたのスキルを使って貢献する。
- ・個人的な理想と信念を実践に移す。
- ・ワイズメンズクラブ国際協会の会員との親交を深める。

地域社会レベルで

- ・地域の若者のために人材と資源を提供する。
- ・その他の奉仕クラブや地域奉仕団体と連絡を取って、互いに支援する支持基盤を提供する。
- ・YMCAのプログラムの立案と実施の支援をおこなう。

国際レベルで

- ・他者について学び、分かち合う事を通して、国際理解と平和のために努力する。
- ・学生が外国を訪問したり、会員の家庭にホームステイしながら勉強できるように支援する。
- ・国際的プロジェクトのために募金活動に参加する。
- ・「全人類のより良き世界を築く」ためにリーダーシップを奨励し、向上させる。

私達の仲間に加わってください



詳細に関しては: www.ysmen.org をご覧下さい。

ワイズメンズワールド 2015/16年度 第4号

発行者:ワイズメンズクラブ国際協会

西日本区理事 遠藤通寛(大阪東北) / 東日本区理事 渡辺 隆(甲府) / 国際編集長 Koshy Mathew

日本語翻訳・編集責任者 谷本秀康(東広島)

日本語版翻訳者 倉田正昭(京都)、谷川 寛(大阪センテナル)、青木一芳(千葉)、後藤邦夫(東京まちだ)、今城高之(横浜つづき)、田中博之(東京多摩みなみ)

印刷 (株)三浦印刷所